SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

観測瑣談

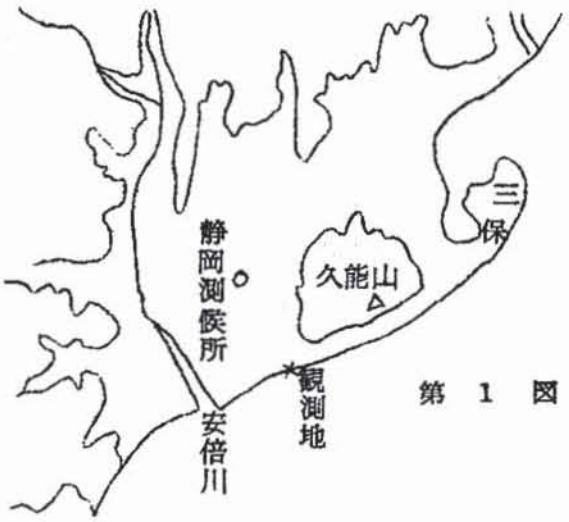
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2011-08-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々倉, 航三 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.14945/00006084

観　測　瑣　談

佐々倉　航　三※

夏の昼は海上が陸上よりも一般に低温であり，したがって海風の吹き渡る沿岸地域の昼は内陸よりも涼しといわれる。海上，汀線，浜，内陸というようにだんだんと気温が高くなってゆくのであるが，小気候学的に観測すれば実際にはどのように気温が変化（水平方向の気温傾度）しているものであろうか。あまりに常識的な平凡なことではあるが，この種の調査の実例が1つや2つ気象や気候の本には書かれていてもよさそうであり，どこかの本か報文にはきっと載っているに違いないのであるが，筆者は不勉強のためかあまり見かけない。そこで静岡へ赴任した年，すなわち既に10年前の観測ではあるがこの種の調査を簡単にやったのでここに書きとめて置いてご参考に供したいと思う。

調査は昭和26年（1951）8月28日に静岡市の南東方に当る高松海岸（第1図参照　久能山の西南西方約4粁）で行われた。観測時刻は夏時刻の11時30分から12時の間に行い，当時の天気は雲量2（積雲）の快晴であった。測器は携帯用簡易風向風速計とアスマン式乾湿計とを用いた。



第1図

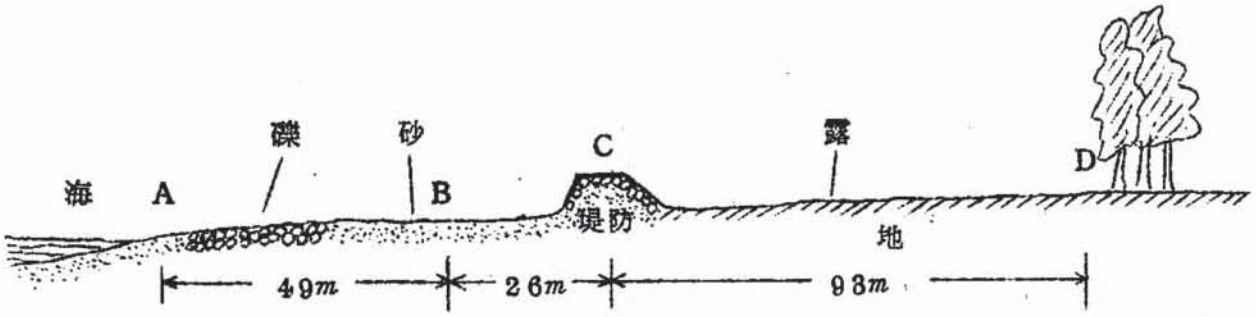
高松海岸における観測点は第2図の如くA，B，C，Dの4点で観測成果は次のようであった。

地　点	A	B	C	D
気　温	27.8℃	30.0	29.6	29.8
湿　度	84%	73	74	74
風向風速	SE 2.0 m/s	SE 2.1	SSE 2.8	SSE 2.5
水蒸気張力	23.3mm	23.0	22.8	23.1

※静岡大学教授

前記の資料によれば汀線Aから砂浜の中間点Bまでは僅か50米しか距っていないが，気温は27，8℃から30.0℃まで急昇しており，そこに対応して湿度は84％から73％まで急降している。C，D2点における気温や湿度もほぼB点におけるものと等しい。水張はA，B，C，D各点を通じて概ね一定（23㎜）しているから湿度の急降は気温上昇の結果と見てよいであろう。

次に高松海岸から北西へ4粁離れた静岡測候所で観測された13時の気象は31.0℃，湿度70％，風向風速SSE 5.4m/sであった。海岸の気流が静岡測候所まで達するのに当時の風速から推測して約30分を要するものと考えれば，13時の気温は31.0℃であるから日射の時間的増強に伴う気温の上昇を考慮すれば途中4粁を流れてゆく間にはほとんど昇温しなかったことがわかる。

すなわち海上の風は汀線を越えて上陸すれば礫浜や砂浜によって直ちに熱せられてしまうものらしく，沿岸地域だとて特に低温ということはない。ただ沿岸地方では昼間は海風が比較的強いこと，そしてその海風の中には海上の冷気（比較的の意味）が一塊となってそのまま包まれて陸上へ送られてくるような場合もあり得る（例えば汀線付近から風下に向って日蔭が続いているような場合）から，沿岸地域で涼しい感覚を与えられることも事実である。

第2図　測点の分布